

マイクロソフト社との意見交換イベント開催します！

信頼あるデジタル技術が 切り拓く未来について（仮題）

マイクロソフト社プレジデントのブラッド・スミス氏の来日を記念して、信頼あるデジタル技術が切り拓く未来について、来る4月21日（金）に学生と質疑応答を行う交流イベントを開催します（ハイブリッド開催）。生成系 AI に注目が集まるなか、デジタル技術の進歩とその社会的な影響について、関心が高まっています。ブラッド・スミスは著書『ツール・アンド・ウェポン』の中で、「技術が世界を変える時、その技術が作り出した世界に対応する責任が生じる」と述べており、AI をはじめデジタル技術が信頼あるかたちで提供されるための論点等について、参加者の皆さんとディスカッションを行います。

2023年4月21日（金）10:10～11:00

登壇者： ブラッド・スミス氏（マイクロソフト社 プレジデント）

田村 善之（東京大学法学政治学研究科教授）

江間 有沙（東京大学未来ビジョン研究センター准教授）

開催形式： ハイブリッド形式

オンライン参加▶ Zoom ウェビナー（Web システム）を利用

＜会場参加▶当プログラムが指定する授業受講者のみを対象とさせていただきます＞

使用言語： 日本語・英語（同時通訳あり）

参加申込： 参加ご希望の方は、前日 **20日（木）正午まで**に、右の QR コードもしくは
<https://forms.gle/KkyvRoiM1fu81aUe8> からお申し込みください。※

※ご記入いただきました個人情報は当イベントの運営目的にのみ利用させていただきます、終了後は廃棄します。

Zoom URL 等のご案内は、前日 20 日の午後、ご登録頂いたメールアドレスにお送り致します。



なお、スケジュールの関係で急遽開催を中止する可能性もございますので、ご承知おきください。



先端ビジネスロー国際卓越大学院プログラム

The World-leading Innovative Graduate Study: Advanced Business Law Program

【問い合わせ先】

東京大学大学院法学政治学研究科

先端ビジネスロー国際卓越大学院プログラム事務局

<https://ablp.j.u-tokyo.ac.jp/event.html>

E-mail : ablp@j.u-tokyo.ac.jp

【登壇者】



ブラッド・スミス (Brad Smith) 氏

スミス氏は、マイクロソフトのビジネス、法務、政策渉外の専門家チームを指揮しています。サイバーセキュリティ、プライバシー、人工知能、環境の持続可能性、人権、移民、慈善活動など、テクノロジーと社会の接点となる重要な問題に取り組むマイクロソフトの活動を主導する上で重要な役割を果たしています。

1993年にマイクロソフトに入社し、パリにてヨーロッパの法務および政策渉外チームを率いた後、2002年に法務顧問に任命されました。その後10年間、世界中の政府やテクノロジー業界の企業と独占禁止法に関する論争を解決するための取り組みを主導しました。過去10年以上にわたり、マイクロソフトの顧客のプライバシー保護やその他の移民の権利を推進するための同社の取り組みの先頭に立ち、これらの問題について米国政府に対して複数の訴訟も起こしてきました。

マイクロソフトに入社する前は、Covington and Burling 法律事務所のパートナーを務めていました。また、スミス氏は、市民活動組織、テクノロジー業界全般で精力的に活動しており、2015年からNetflixの取締役と共に、Kids in Need of Defense (KIND) や Washington State Opportunity Scholarship プログラムの理事長も務めています。

ウイスコンシン州アップルトン出身。プリンストン大学では国際関係と経済を専攻して首席で卒業。コロンビア大学法学部で法学博士号を取得し、スイスのジュネーブ国際関係大学院で国際法と経済学を学びました。

田村 善之 (Yoshiyuki TAMURA)

東京大学大学院法学政治学研究科教授、北海道大学名誉教授。2003年から21世紀COEプログラム拠点リーダー、2008年からグローバルCOEプログラム「多元分散型統御を目指す新世代法政策学」拠点リーダー、2019年から東京大学法学政治学研究科先端ビジネスロー国際卓越大学院プログラムコーディネーター。専門は知的財産法。主要著作に、『知的財産法(第5版)』(有斐閣、2010年)、『知財の理論』(有斐閣、2019年)、『知的財産権と損害賠償』(第3版・2023年・弘文堂)など。



江間 有沙 (Arisa EMA)

2012年東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術)。東京大学未来ビジョン研究センター准教授。京都大学白眉センター特定助教、東京大学教養学部附属教養教育高度化機構特任講師を経て現職。2017年1月より国立研究開発法人理化学研究所革新知能統合研究センター客員研究員。専門は科学技術社会論(STS)。人工知能やロボットを含む情報技術と社会の関係について研究。主著は『AI社会の歩き方ー人工知能とどう付き合うか』(化学同人 2019年)、『絵と図で分かるAIと社会』(技術評論社、2021年)など。

